

生徒を引率中(指導中)に経験したヒヤリ・ハット事例集 (その他)

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

※ この事例集は、平成29年度に開催した高等学校等安全登山指導者研修会の事前課題で研修生の皆さんから収集したヒヤリ・ハットの主な事例と対応についてまとめたものです。場所や人が特定されないように、修正を加えたものです。

キーワード	事例	対応、その他
チーム管理	登山ルート終盤の樹林帯、ゴールに温泉があり、何としても風呂に入りたい部員が「急ぐ」ではなく「走って」先行し、姿が見えなくなってしまった。樹林帯は歩きやすく複数のふみ後からコースが判然としなくなった。 先行していた生徒は無事到着して事なきを得た。	先行した生徒たちが目視できる範囲での先行を許していたことが裏目に出た。以後、隊を分ける行動は厳禁となった。
チーム管理	月例山行10月、翌日は強雨、という予報が確実そうなので、幕営を取りやめ、サブ行動・日帰りに変更した。 下山で1人が遅れがちとなり、顧問がその前後についていたので、先頭は生徒となった。あまりの遅さに、体力のある2人の生徒が先行し、後続との間隔がだんだん広がった。〇〇山を過ぎた辺りから、後ろから先頭の2人が見えなくなった。 〇〇を過ぎても合流できず、所在が一時不明となった。	所在が不明となってから、携帯電話で連絡を取ろうとしたが失敗。(山中なので電源を切っていた) 仕方ないので合流できるまで下山を続けた。 2人とは駐車場付近で合流した。 生徒の言い分では、ヘッドランプの電池トラブル(暗がりの中、電池交換を失敗し、電池を紛失)で行動不能に陥ったので、下で待っていたらしい。
チーム管理	9月の午後、下山中、激しい雨に見舞われグループが2つに分かれてしまった。	顧問が最後尾にいたため後半グループを出来るだけ急がせ追いついた。悪条件の時には決して隊を分けてはいけないと痛感した。またルート上での休憩地点について共通認識をもつ事も大事だと感じた。
チーム管理	下山時に、最後尾を歩いていた生徒がほどけた靴紐を結ぶため立ち止まり、追いつくためにあわてて別の道を進んでしまい、遭難した。いなくなったことに気づいたのは下山してからであった。	警察に通報、保護者に匂いのついたものを自宅から持ってきてもらい山狩りをする直前に、本人が自力で下山してきた。 約20名の生徒に対して、引率教員1名であったことが原因と考えられたため、これ以降は必ず複数の教員で引率することとした。
チーム管理	登山中、一人の部員が何を勘違いしたのか、途中の枝道から下山してしまった。30人ぐらいのグループだったので、戻って下山、バス停近くなってその一人がいけないことに皆が気づき大騒ぎになった。本人は、途中、周りに仲間もいなく、見慣れない小屋が出てきたので、間違いに気づき、再び登り返し、皆と同じ道で下山。本隊より30~50分遅れて顧問と合流できた。	本人が途中で携帯で家に迷ったことを連絡。家庭から学校、学校から顧問の携帯に連絡があった。そのときは本人と顧問との連絡がつき、現在本人がいる場所等が分かったので、そのまま下山するよう指示した。本隊は別の顧問が引率し、バスで先に帰った。本人と顧問の二人はタクシーで駅まで帰った。
チーム管理	先頭を歩いていた生徒が、ルートを誤認し登山道でない沢すじのガレ場を登り始めた。引率顧問は先頭から10mほど後ろを歩いていたが、すぐに気付くことができず、先頭の生徒は10数m登ってしまい、不安定なガレ場を下降せざるを得なくなった。	顧問がガレ場を登り、立木に持っていた補助ロープ(8mm 20m)を固定し、それを掴んで下降させた。その後、その場で地形図を再確認させた。
幕営地選定	荒天の中で一泊二日の夏山準備合宿(7月上旬)を実施。一日目の行程を終了し、予定どおり幕営地(避難小屋併設)に到着。事前の下見で幕営可能なスペースが狭いことは確認していたが、どこも巨大な水たまり状態で水没しており、生徒の技術では幕営で夜を明かすのが困難な状況に直面。	防水対策が不十分な1年生などもおり、気温も低めであったことから幕営を断念し、併設されている避難小屋を利用。荒天ということもあって他の利用者は翌日までゼロであった。 事前にプランBとして想定していた対応ではあったが、大人数を引率しての避難小屋利用は基本的には慎むべきであるので、様々な状況を想定して、生徒の幕営技術を向上させる必要性を感じた。
幕営地選定	夏山合宿中に、テント一張り夜中に降った雨で水没。	他のテントに生徒も荷物も避難させた。 目視では分からなかったが、水没したテントは他の場所より低い場所だったようだ。
幕営地選定	夏山合宿で水が溜まりやすい場所にテントを張ったため、雨水が溜まり、テントに浸水してシュラフ、服が濡れたため寒さに耐えられなくなった。	服が濡れたものは山小屋へ避難させ、素泊まりの料金を払い布団で寝かせた。
事前情報	日帰りで低山を訓練縦走。最寄り駅から登山口周辺まで路線バス(市内巡回)を利用する計画であったが、乗車予定のバスが想定外に混み合っており、全員メインザックの大所帯では乗車できなかった。そのため、プランBとして設定しておいたルート(行程が長くなる)を選択。 体力的に弱いメンバーが途中でバテ気味となり、行動が想定以上に遅延。無事に下山したときには日が暮れてしまい、雨の中でヘッドランプを使用した。	夏山合宿を想定してパーティメンバー全員が20キロのメインザックを背負っていたため、体力的に弱いメンバーがバテてしまった。行動が遅延した段階で重しに使用していた水(重量の大半)を捨てさせたうえで、荷分けを行った。 重量軽減後は、怪我や行動不能になるようなこともなく、結果的には行動時間の遅延のみで済んだが、大所帯で行動する際のプランニングという点で課題を感じる山行であった。
事前情報	3月の残雪期にツェルト・スノーシューなどの日帰り訓練登山を計画。強風注意報が出ていたが天候が安定していたので〇〇スキー場を目指す。午後天候が急変するが、ゴールが近いので予定通り進んだところ、スキー場の施設が閉鎖されゴンドラも運休。エスケープルートも雪に埋没。引き返すことも考えたが、生徒が疲労を訴える。日没も近づき、行動不能と判断した。	ツェルトや食料や燃料など装備は十分なのでビバークを考えたところ、施設の空き部屋を発見。110番に連絡して状況を説明、山岳救助隊からスキー場に連絡を取ってもらう。閉鎖された施設に職員がいて、パトロールが来てくれ、ゴンドラを動かしてもらい下山した。事情聴取を受けたが、登山計画・装備・行動には問題がないとして遭難扱いにならなかった。学校には翌朝報告。
他者とのトラブル	ゲレンデスキーで女子生徒がリフト待ちをしていた時、一般のスキーヤーが1名、止まりきれずに突っ込んできた。二人とも転倒したが、突っ込んできた一般スキーヤーの男性が骨折し、救急車で病院まで運ばれた。	リフト待ちで停止していたのだが衝突され、当事者ということで被害者にもかかわらず、診療所まで同行することとなった。解放されるまで1時間以上かかった。
他者とのトラブル	夏山プレ合宿中、全装歩行の練習として、車道を上っている最中に、カーブを攻めて降りてくるバイクと接触しそうになる。	交通ルールでは歩行者は右側通行だが、対向車と接触の危険があるので左側通行にさせた。

キーワード	事例	対応、その他
保護者対応	ワンダーフォーゲル部冬山合宿において、悪天候のため山中で2日間停滞し、予備日を使って下山した。予備日前の下山予定の日に下山できなかったため、保護者から学校へ問い合わせの電話があった。	電話を受けた教頭は登山専門部の副委員長へ連絡し予備日なので予備日終了時に対応する事とした。結果的に1日の予備日の午前中に下山した。その後の登山専門部の研修会で予備日について保護者にしっかり周知すべき事例として数回お話した。
その他	雪洞泊中の夜に不安を訴える生徒がでた。	ろうそくとヘッドランプで明かりをとり、落ち着くまで声掛けをし、安心させるようにした。
その他	県高体連主催の新人大会(雨と風が強い状況)で、標高2,000m付近で、A高校チーム4人(うち1人が体力消耗)が、班行動から離脱し、B高校の登山隊長1人とともに最後尾で行動した。途中、無線交信がとれなくなった。結果は、登山隊長以下5名は予定時間の90分遅れで到着した。しかも、大会ルートでない登山道を使用していた。	この事例について、大会後3点から対応した。 1 加盟校5校の現状で大会運営を考えると、審査などを担当すると引率顧問数が不足する。経費はかかるが他校から登山できる人材を派遣してもらうこととした。 2 登山隊長であっても、予定ルート以外を登山するのは二重遭難を招きかねないので、以後しないことを確認した。(隊長は安全を優先したルートを選択したとコメントしている。) 3 無線機の不具合の原因は何かを究明した。(原因は操作不慣れ、地形により障壁あり。) 当日は、アナログ無線機1台とデジタル無線機1台、携帯電話の3つを使い分けしていた。 また、無線機は年に2回しか操作しない状況であった。 以後、登山大会開始前に、無線機使用の簡易講習を行っている。また、無線機は(混線が少なく操作しやすい)デジタル機器に統一した。
その他	2月、10人乗りのワンボックスにフル乗車で移動中のできごと。公用車が4駆であるかどうかを確認せずに使用。凍結した車道でスリップし、前にも進めず、ブレーキを踏んだらそのまま車体が滑り落ちる状態だった。そのうち何とか滑りが止まったので、周囲の枯れ枝等を道路に敷いて脱出できた。	凍結の少ない別のルートで登山口まで移動した。このことを所属長に報告したところ、次年度以降は4駆車のレンタカー代金を補助してもらえるようになった。また、4駆を過信せずチェーンも必ず携行している。冬は、車での移動時にも細心の注意が必要であると痛感させられた。